



在宅医療・介護情報共有システムの愛称が決まりました

松阪地域では、在宅で療養されている方々を支える専門職の情報共有をスムーズにするために、インターネットを活用した情報共有システムが昨年度より導入されています。

昨年6/5～7/31には、この情報共有システムをもっと身近に親しんでもらえるように愛称を募集しました。17の応募作品の中から候補をしばり、第11回の多職種勉強会の参加者の方々に投票をしてもらいました。その結果、すずの輪に決定しました。

この愛称の考案者は、やまゆり歯科の村田賢司先生です。

松阪のシンボルともいえる『鈴』。各職種が連携をとる際、この鈴を鳴らすかのようにシステムを使い、輪(ネットワーク)を構築させてほしい。



どの思いが込められています。

在宅医療・介護情報共有システム活用勉強会を開催しました

昨年10/30(水)に松阪市内、11/12(火)に多気町内で、在宅医療・介護情報共有システムすずの輪の活用勉強会を開催しました。「情報共有システムに興味がある」「IDを取得したが使用していない」「今後活用したいと思った」などいろいろな目的で、2会場で136名の方々にご参加いただきました。



「情報共有システムの活用について」、講師の石田クリニック 石田巨宏先生よりシステム利用状況や事例紹介をしていただきました。『顔の見える関係ができてることが大切』『まずは、使ってみなはれ!』という先生の言葉が印象的でした。冗談も交えながらのお話は、大変分かりやすく、「気負わず、まずは使ってみたらいいのだと安心した」「利用してみたい」「便利そうだった」という参加された方からの感想も聞かれ、気軽に始めようと思っていただけの方が増えた気がしました。現在システム登録者は435名(R1.11.30時点)です。使ってみたく思われる方やお問い合わせに関しましては、連携拠点までお願いいたします。

第11回 多職種勉強会を開催しました!

8/23(金)に『シリーズ 連携がうまくいくコツ いかない理由①』をテーマに多職種勉強会を開催しました。松阪地域の医療や介護の専門職175名にご参加いただきました。

話題提供では、『『食べたい』を叶える為に多職種で取り組んだ症例～胃ろうから経口へ～』について、松阪地区歯科医師会口腔ケアステーションの近田紀子氏(歯科衛生士)、居宅介護支援事業所なでしこ苑の前村麻子氏(介護支援専門員)より事例紹介をしていただきました。

脳出血後の後遺症で嚥下障害を認め、胃ろうをしながら在宅療養されていたご本人とご家族が、経口摂取を希望され、多職種で取り組んだ事例についてお話いただきました。「食べたいを叶える」という1つの目標に向かって、多職種が連携を密に図り、それぞれの専門性を発揮しながら、ご本人・ご家族の思いを叶えた多職種の関わりがとてよく分かるお話でした。支援介入時から経口摂取ができるようになるまでのご本人の様子を動画でも紹介していただきました。



～参加者の方々の感想～

(勉強会アンケートより抜粋)

- ・目標達成のために専門チームが輪になって、頑張っている姿がとても感じられた。
- ・情報共有の大切さがわかった。
- ・実例を挙げて話をさせていただくことで、よく理解できた。
- ・最初の訪問時の表情と自分の手でスプーンを握り、もぐもぐごっくんしている表情がこんなに違うことにびっくりした。経口により生きる力がわいてきたのがよく分かった。

グループワークでは、2つのテーマで話し合ってもらいました。1つ目は提供事例を通じて、目標を達成するために、どのタイミングで、どの職種同士が、支援を行い連携していくのかについて整理をしてもらいました。2つ目は『多職種で連携する際に大切なことは何か』について話し合ってもらいました。

多職種との連携について、改めて考える機会になる勉強会でした。ここで話し合われた内容については、次の頁で紹介する「在宅医療・介護連携ハンドブック(仮称)」にも反映されています。



在宅医療・介護連携のための話し合いが進められています

今年度の連携拠点の取り組みの1つとして、前回のわおん第2号でも紹介した「在宅医療・介護連携ハンドブック(仮称)」の作成を進めています。このハンドブックは、こうしなければならないというマニュアルではなく、在宅医療・介護を支える多職種によりよい連携のためのヒント集のようなものをイメージしています。

昨年7/26には、令和元年度 第1回 まつさか医療～顔の見える連携会議を開催しました。この会議は、入退院に関わる医療と介護の連携に関する協議の場で、話し合うテーマや目的によって集まる関係者が流動的に変化します。現在、連携拠点は事務局としての役割を担っています。

今年度は、在宅療養をされている利用者(患者)の医療・介護サービス提供をスムーズにするため、また連携の場面で生じる困りごとを少なくし、本人の望む在宅生活を支援するためのよりよい連携のあり方を協議するという目的で開催しました。

松阪地域(松阪市・多気町・明和町・大台町)にある10の病院、医師会、歯科医師会、薬剤師会、保健所、訪問看護ステーション、老人保健施設協会、老人福祉施設協会、サービス付き高齢者向け住宅、介護支援専門員協会、地域包括支援センター、行政などの関係者総勢50名を超える方々に集まっていただきました。これほどたくさんの関係者が一堂に集まり、顔を見ながら話し合いができる機会は大変貴重でした。そして、連携をする上で、心がけていることや困りごとについて共有をしました。病院、施設、在宅のそれぞれの立場や思いを知ることができました。



12/3には、顔の見える連携会議 実務者検討委員会が開催され、入退院支援に関わる医療ソーシャルワーカーや退院調整看護師、訪問看護師、施設関係者、介護支援専門員をはじめとした実務者による協議を行いました。顔の見える連携会議でも話題に挙がった入退院時の情報共有について話し合いました。文書による情報共有だけでなく、お互いの顔を見ながら情報共有することの大切さ、立場によってほしい情報も、知っておいてほしい情報も異なるため、知りたい情報があれば、尋ねたり、実際に自分の目で確認することも大切ということを再確認しました。

これらの会議や多職種勉強会などから連携の基本やよりよい連携につながるヒントを集めています。それをハンドブックに反映することで、地域全体で共有できることを期待しています。病院・施設・在宅のさまざまな専門職の方々に活用していただけるものを完成させたいと考えています。



地域包括ケア推進に関する
会議等の関連図 (松阪市)



第12回 多職種勉強会のご案内

日時：令和2年2月5日(水) 19:00~21:00

会場：済生会松阪総合病院 7階講堂

今回は、「シリーズ 連携がうまくいくコツ いかない理由」の第二弾として、入退院時の連携の実態や課題について多職種で共有していきます。市内3つの急性期病院の入退院に関わる専門職のみならず、さまざまな話題提供をしていただく予定です。入退院時の連携について知れるよい機会ですので、普段、入退院連携に関わりのある方だけでなく、あまりなじみがないという方も、たくさんのご参加をお待ちしています。

連携拠点からのお知らせ

■医療・介護の資源把握について

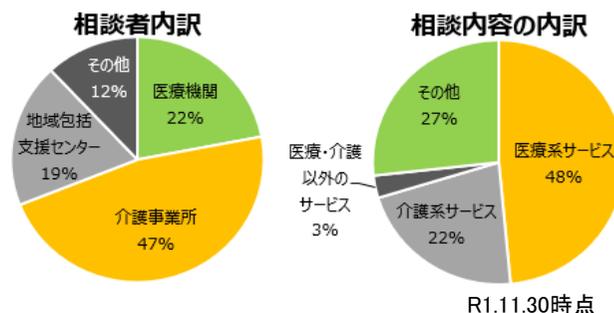
連携拠点では、地域の医療や介護に関する資源の把握を行い、マップやリストを作成しています。松阪地域の医療機関・介護事業所マップ(位置情報)やリスト(名称・所在地・電話番号等)など資源情報が必要な場合は、連携拠点までご連絡ください。

なお、これらの情報は、情報共有システム「すずの輪」にも掲載しています。ご活用ください。



■相談支援について

連携拠点では、在宅医療や介護に携わる専門職の方々からの在宅医療・介護に関する相談を受け付けています。こちらもご活用ください。



あとがき

1年もあっという間に終わり、新しい年を迎えました。昨年の最初に立てた目標も、今読み返してみると懐かしい気もします。達成できた目標、立てたことも忘れた目標… また気持ちも新たにスタートしたいと思います。



松阪地域 在宅医療・介護連携拠点

〒515-0076 松阪市白粉町363番地
(松阪地区医師会館1階)

TEL:0598-25-3070 FAX:0598-25-3071
メール:ks-shien@city.matsusaka.mie.jp

◇月～金 9:30～16:00◇
(祝日・年末年始を除く)